

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第3号（通算第34号）
平成28年10月3日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



小学校親善陸上大会
(9月15日 三条・燕総合グラウンド)

誇りや生きがい、感動がなければ現場力は生まれない

教育センター統括指導主事 小池 和秀

『奇跡の職場 新幹線清掃チームの働く誇り』の著者、矢部輝夫（JR 東日本テクノハート TESSEI 社おもてなし創造部長）氏の言葉である。

私の専門はもともと安全システムでした。その「安全屋」の発想としては、「これだけはやらなくちゃいけない」「これだけやっていたらいい」ということでは事故はなくなりません。「マニュアルさえ守っていればいい」というだけで事故がなくなるのなら、とっくの昔に事故はこの世から消え去っているはず。いくらルールを決めたり安全システムを作ったりしても事故がなくなるのは、機械を操作しているのが「人間」だからです。人間のやる気を引き出したり、集中力を高めたりすることができなければ、事故を防ぐことはできません。安全と密接な関係を持つ人間の心理を30年以上追求してきた身として、TESSEIに必要なのも同じく、何よりも人間のやる気を高めることだと思いました。怒って改善できるものなら、私だって怒って命令してやらせます。しかし、30年の私の経験では、ただ怒っても人間のミスは治らないのです。かりに素晴らしいマニュアル、ルール、方向性を定めても、結局、それを実行するのは人間です。

TESSEIでは、スタッフに仕事への「誇り」と「生きがい」を持ってもらうために「エンジェルリポート」というものを作成している。これはスタッフのことを主任がリポートにまとめるものである。ルールは一つだけ。「あなたが良いと思ったことだけをどんどん書いてください」。良いこと、当たり前と思って見過ごされていることをどんどん報告してもらおう。リポートを書く主任が30人ほどいるが、1年に3000件くらいの「良い報告」があがってくる。それを集約して、毎月2回、エンジェルリポートとして発行する。100人の人間がいたとして、1人のミスにだけ着目するとすべての成果がゼロになってしまう。しかし、99人は一生懸命に良いことをやっているわけだから、その99人に着目しようというのがエンジェルリポートである。もちろん、1人のミスについても同時に改善に努めるのは当然だが…。エンジェルリポートによく取り上げられる従業員には表彰も行っている。一方、「良くほめてくれた人」を表彰する制度もある。矢部氏は言う。

最初はなかなか報告があがってきませんでした。「当たり前のことをやっているのに、なぜほめなければならぬのか」という意見もありました。「なぜ一般の表彰制度のように、突出した従業員だけをほめるのはいけないのか」と。私の考えでは、現場を支えているのは一部の優秀な人間ではなく、すべての従業員です。多くの従業員が当たり前のことを当たり前のようにちゃんとやることで、弊社を担ってくれているわけです。そこに焦点を当てなければなりません。「ほめられる」ということが誇りや認め合い、生きがいにつながり、大きな力になっていきます。「みんなが見てくれている」というのは、働く者にとって活力の源泉ですよ。

いよいよ Step1, Step2 研修(研究授業)がスタート!

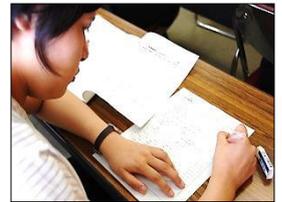


「Step1 研修」(16名—小8名、中8名; 教職経験2年目~5年目)、「Step2 研修」(9名—小6名、中3名; 教職経験7年目~10年目)受講者による研究授業の公開が9月下旬から始まりました。それぞれにこれまで指導力の向上を目指し、「授業づくり入門学習会」、「教育研究論文作成学習会」を3回行ってきました。「Step1」では、授業力の向上を目指した授業づくりのポイント(思考場面のある授業づくり・授業技術・教材研究・指導案の書き方等)について学習し合い、「Step2」では、教育研究や授業実践の力量を高めるための具体的な手法(三条市の学習課題と授業改善・研究計画と実践・研究実践と指導案のポイント・論文執筆要領等)を学ぶことができました。この「授業力向上実践研修」を通して、是非更なる指導力向上へのきっかけをつかんでほしいと願っています。

研究計画と実践・研究実践と指導案のポイント・論文執筆要領等)を学ぶことができました。この「授業力向上実践研修」を通して、是非更なる指導力向上へのきっかけをつかんでほしいと願っています。

~受講者の「授業にかける願い」を拾ってみました(ほんの数例ですが)~ (◆Step1◇Step2)

- ◆どの子も自信をもって活動や発表ができる授業
- ◆子どもが「話したい」「みんなの意見を聞きたい」という思いをもって主体的に取り組む根拠を明確にして、筋道を立てて話す力を伸ばす授業
- ◆学習事項を自分の生活や身近な地域と関連づけて考え、将来の三条や新潟、日本について主体的に考える授業
- ◇他と対話し交流することで、自分とは異なる見方や考え方に触れ、考え方を深める授業
- ◇子どもの交流(対話)を通して、子どもたち自身が「解けた、できた、分かった」と実感できる授業
- ◇子どもの「分からなさ」を引き出し、解決に向かってみんなで考えを出し合う、全員が参加できる授業



初任者研修体験研修(保育所・園)を終えて 仕事のやりがいを...

7

7月26日(火)初任者研修体験研修で、初任者16名(小12名、中4名)が市内8保育所4保育園で一日日程の体験研修を受けました。各所(園)長様をはじめ保育士の皆様からは、ご多用のところ初任者に丁寧に対応していただきました。初任者の研修報告には、保育士の皆様が子どもの未来を見据えて、基本的な生活習慣の形成や自主性・主体性を伸ばそうと根気強く子どもたちに接する姿、日々の様子を丹念に記録し保護者に伝える姿などから多くを学んだことが記されていました。

保育所(園)で行う研修は、小学校教員にとっては学校における子どもへの接し方に直接つながる内容を具体的に学ぶ場に、中学校教員にとっては12年間の教育の流れを感じ、子どもの成長を支援するための共通の視点を見いだす場になります。さらに、小中一貫教育を進める三条市においては、小中交流を深める上で、そして何よりも、実践を通して学ぶ、社会人としての在り方を学ぶ上でとても意義ある研修だったと考えています。

ある中学校の先生(男性)はこんな感想を寄せてくれています(一部抜粋)

(前略)普段経験もない自分がどのように園児と接したらよいか、大きな不安を抱えたまま研修に臨んだ。(中略)子どもたちの態度にはウラオモテがなく、まっすぐ素直にこちらに向かってきてくれる。一方私は、「どんな口調がいいかな」「嫌われないかな」などと不安にとらわれて無意識に「構え」の姿勢をとっていた。日頃の中学校勤務はどうだろうか。(中略)この日は園内で飼っているザリガニを描く活動があった。子どもたちは大胆だ。保育園の先生が、「胴体はこのくらい大きさで～」と指導するが、構うことなく筆を走らせる。気になったところ、目に入った物をどんどん描き込んでいく。(中略)「描けない」という子は一人もいなかった。描いていたときの顔は真剣そのものであった。見ているこちらがうれしくなるくらい生き生きとしている。(中略)園児たちの姿から表現活動の原点について考えさせられた。(中略)

当然楽しいことばかりではなく、幼児ならではのトラブルも絶えない。そんな中でも子どもたちにとって意味のある時間と活動を生み出そうとする先生方のエネルギー、園児全員に目を配る責任感と優しさをひしひしと感じた。自分にとっては不慣れた現場であったが、教育という仕事のやりがいを改めて実感することができた。

「学びのマルシェ」について ～スタートから3年目を迎えました～

さんじょう一番星事業の一つとして実施している「学びのマルシェ」の取組が3年目を迎えました。受講生募集に際しての先生方からのご尽力、そして会場校においては運営にあたりご協力をいただき、大変感謝申し上げます。「学びのマルシェ」の評判が広がってきたことで、一定数の受講生を確保しており、また少しずつ増加してきています。現在の受講生数は232名（9月21日現在）です。



学習の様子（一ノ木戸小学校会場）

◆たくさんの児童生徒が参加できるようにするために次のことを行っています。

4つの会場

第一中学校・嵐南小学校、一ノ木戸小学校、下田公民館、教育センターで実施しています。

送迎バスの運行

日曜日のコース希望者のために、バスを運行しています。
市役所→嵐南小→教育センター

コース選択

自分に合ったコースを選んで学習します。

コースの新設

昨年度、トライアルコースを新設しました。

トライアルコース会場の増設

今年度、トライアル教室を第一中学校・嵐南小学校、一ノ木戸小学校でも受講できるようにしました。

募集期間

通年の募集受け付けです。申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。

◆受講者数（9月21日現在）

教室	① プラスワン				② ステップアップ				③ トライアル			④ エキスパート	⑤ トップランナー
	セ	嵐	一	下	セ	嵐	一	下	セ	嵐	一	セ	セ
小5	2	10	14	1	7	7	8	1	6	11	6		
小6	4	10	10	4	4	14	8	3	6	8	10		
中1	0	5	2	0	0	1	4	0	2	4	5	14	12
中2	0	5	3	2	1	0	0	0	2	1	1	7	7

セ…教育センター / 嵐…一中・嵐南小 / 一…一ノ木戸小 / 下…下田公民館

①②では、市民ボランティアの方々から指導していただいています。テキストの指定ページを自分のペースで進め、質問がある場合に指導員に質問するという学習形態をとっています（小は算、中は数英）。③④⑤では、能開センターの講師が授業をします（④⑤は国数英）。

受講生の募集は年間を通じて行っています。希望者がいましたら教育センター（担当：小林指導主事）へご連絡ください。

これからもよりよい事業とするために、改善を加えながら実施していきます。先生方からのご意見やご要望をお聞かせください。

小中一貫教育のさらなる推進を目指して 制度移行＆コミュニティ・スクール

広報等でお知らせしているように、三条市では小中一貫教育をさらに推進していくため、平成29年4月からすべての小学校を「中学校併設型小学校」、すべての中学校を「小学校併設型中学校」へ移行します。また、平成30年4月から大崎小学校・大崎中学校を一体型の「義務教育学校」へ移行する予定です。

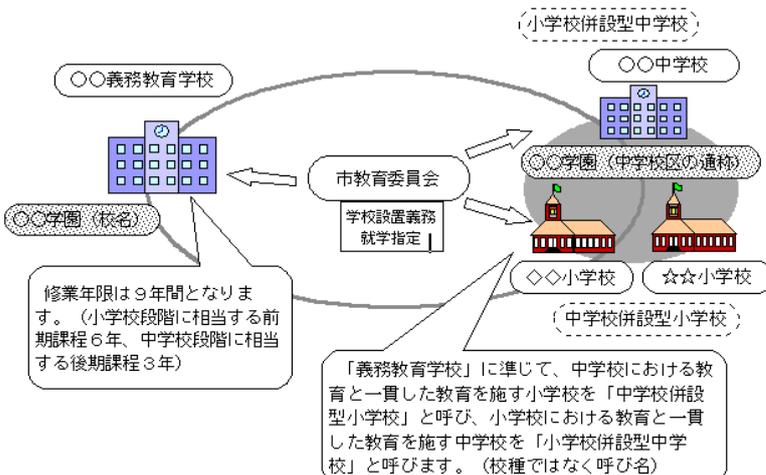
そして、小中一貫教育を支える地域の仕組みとして、各校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールの指定を行います。具体的には、栄中学校区、大島中学校区の各校をモデル校とし、準備を進め、平成30年度末には各小中学校に学校運営協議会を設置していく予定です。

小中一貫教育の2つの類型

	義務教育学校	中学校併設型小学校、小学校併設型中学校
校名	〇〇学園	〇〇小学校、〇〇中学校（校名の変更なし、中学校区に呼称として〇〇学園を設定）
修業年限	・9年 （ただし、転校の円滑化等のため、前期6年と後期3年の課程の区分は確保する）	・小学校 6年 ・中学校 3年
教育課程	・9年間の教育目標の設定、9年間の系統性のある教育課程の編成 ・小学校・中学校の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設	
組織	・1人の校長 ・一つの教職員組織 ・教員は原則小・中免許を併有	・学校毎に校長 ・学校毎に教職員組織 ・教員は各学校種に対応した免許を保有
施設	・一体型校舎 ※法令上は施設の一体・分離を問わず設置可能	・分離した校舎

移行スケジュール（予定）

	小中一貫教育制度移行	コミュニティ・スクール（CS）
H28 4	推進協議会長・推進リーダー会議	
5		
6	各中学校区第1回推進協議会 学園呼称の決め方検討	CSについて説明
7	7/13 CS導入研修 「広報さんじょう」7月16日号に制度移行、CSの特集掲載	
8	学園呼称の募集等	
9		
10		
11	各中学校区第2回推進協議会 学園呼称の協議等	
12	11/29 CS導入事例研修	
H29 1	学園呼称の投票等	
2	各中学校区第3回推進協議会 学園呼称の選定	
3		
4	併設型小学校・中学校へ移行 学園長の任命	



コミュニティ・スクールのイメージ図

コミュニティ・スクールは、任命された保護者や地域住民の方々が一定の権限をもって学校運営に参画する「地域とともにある学校」の仕組みです。

小中一貫教育とコミュニティ・スクールが両輪となって取組を進めることで、学校と地域が力を合わせ、それぞれの立場で主体的に子どもたちの成長を支えていく持続可能な環境が整うと考えています。

